

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2064413
園名	粕江こだま幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜・花の栽培

<テーマの設定理由>

園庭に咲く季節の花を見て季節を感じるだけでなく、自分たちの花として体験活動とする。園の畑を活用して、普段食している野菜について気付きを求めるための体験活動と食育に関する知識取り組みをもつ。深める

2. 活動スケジュール

季節の花の種子及び球根の観察と感触を味わい、成長過程を観察し記録する

○年少 ひまわり（6月）、ヒヤシンス（1月）

○年中 あさがお（6月）、チューリップ（12月）、

○年長 ミニトマト（6月）、クロッカス（11月）

じゃがいもの植付と収穫、夏野菜と植付と収穫と試食

○年中3月に園内畑に種芋の植付

○年長6月に自分達が植えたじゃがいもの収穫、お泊り保育でカレーの具材として食す（7月）

○全学年、クラス毎になす、きゅうり、とまとの育成観察と草取り、収穫直後にクラスで試食
市内農園にて全園児のさつまいも掘り（10月）、やきいも大会（11月）

その他、園内果樹（みかん、ゆず、キウイ、柿）の収穫と試食

3. 探究活動の実践

（準備） 各種 種子と球根、土壌作りの肥料等

（活動中の様子）

・様々な花や樹木について興味関心を高めることができた。自分が植え付けした種から芽が出たときの喜び、その後の成長過程を楽しみにして、花が咲いた日は満面の笑みであった。
・畑に行ったら、「わー」の大歓声、「これ僕が植えた！」など喜びいっぱい。
・食べたときの「おいしい！」の一言は笑顔満面。保護者からも「野菜を食べるようになった」などの声も聞かれ、この一連の活動を通して、農作物の成長過程の観察と食の大切さ、食品ロスを認識し食育の推進を図ることができた。

4. 振り返り

・毎日「今日は水あげる？」の声を多く聞く。「あげすぎるとびちゃびちゃになっちゃくね。どうしようかあ」で当番制になる。
・品種を教えない苗を植えたことで、葉や茎を観察して図鑑で調べたりする姿があり、実がなったところで判明し、予想との検証で楽しめた。



夏野菜収穫



初めての芋掘り



自分たちの花



やきいも大会



自分たちのじゃがいも観察

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2064413
園名	柏江こだま幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

芝生での学び

<テーマの設定理由>

芝生の温もりは、園児の健全な発育・情緒安定に繋がると同時に怪我防止の効果も大きい
あそびの中で身体機能を自然体で強化し、あそびの中で新たな発見が期待される

2. 活動スケジュール

- ① 日常生活のあそび
- ② クラスでピクニック気分でお弁当
- ③ 新芽の時期は自然に寝転び、自由な遊び
- ④ 夏季の水あそび、はだしあそび
- ⑤ 雑草や虫の発見

3. 探究活動の実践

(活動中の様子)

園児たちが好んで芝生の上で様々なあそびを繰り広げ、鬼ごっこや縄跳び、ボール蹴りを楽しんでいる。身体を自在に動かせる子にとっては、前転や側転を友達に見せる姿もある。
転倒や滑っても、怪我には至らず怪我防止にも役立っている。
新芽の頃には寝転んでいるだけで、笑い声や転がっている。
子ども達にとって、大好きな場所のようである。
芝生に潜む小さな虫や芝生の成長への気付きが多く見られた。

(メンテナンス) 専門業者へ委託し、通年で園職員が環境保持のため散水・芝刈り等行う。定期的に業者がオーバーシード、土壌改良を行う契約を交わしている。

4. 振り返り

- ・養生期間にボールが入ってしまったりしても、勝手に入らず、「先生、とってきていい？」と立ち入り禁止の意味を体得している。
- ・発芽し、色ついてくると開放日が待ち遠しい園児たちの顔を見ることで、「来週からかな？」「園長先生に聞いてくる～」など、どのようなあそびが広がるか期待される時期である。
- ・立ち入り禁止のパイロンを動かすと、たまたまそこに居合わせた園児から「ここながーいよ」との発見の声があった。



新芽の頃



気持ちいい



芝生と落ち葉あそび



成長の違い

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2064413
園名	粕江こだま幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

小動物や水辺・水中の生き物について

<テーマの設定理由>

ペットを飼っている家族もあるが、生き物への関心と命について、幼児自身が感じ取ることができるように、設定している。小動物とふれあうことで体温や肌触りを体感する水族館への遠足で、水槽を見入るように見学している幼児が多いことから、移動動物園に加えて移動水族館を計画している。

2. 活動スケジュール

- ・5月ふれあい動物園で、小動物とのふれあい、見学、ポニー乗馬での写真撮影
学年毎に時間帯を区分けして行う
- ・9月ふれあい水族館で、水辺の生き物の見学とふれあい
鯉プール、カメ広場はふれあい可能、他展示魚類
- ・通年で、園内で飼育しているうさぎ、かめ金魚の当番活動を行ない、餌やりと一部清掃等を体験する。

3. 探究活動の実践

(準備) 各家庭から少量の餌(野菜)持参を依頼、消毒液
(活動中の様子)

- ・全体で、小動物を抱く際の注意に加えて、小さな体だけど皆と同じ心臓が動いていること、自分に置き換えて小動物に接する気持ちを動物園長先生から聞いている姿勢は、意識が高い。実際に抱っこした園児は「あったかい、ちいさい…」など感想は口々に発せられた。
- ・勢いよく泳ぐ鯉を捕まえようと必死に追いかける子、鱗の感触を体験した子を周りから見ている低年齢児、成長の差を感じる。

4. 振り返り

- ・実施後の、園内の飼育活動への意欲も変化し、飼育小屋付に集まる園児数が多くなる。
- ・移動動物園で触った動物の他に、身近な動物を考え話し合いをして、その動物への接し方を考え、その動物の特徴を知るきっかけとなった。
- ・命を大切にする感覚を育むことができた。
- ・陸の生き物と水の生き物の比較対象もできた。
- ・天候による動物への影響



命のおはなし



小動物とのふれあい



鯉のプール



かめの広場

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2064413
園名	狛江こだま幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と音について

<テーマの設定理由>

色の違いを認識して、色あそびを楽しんでいる園児に、自ら色をつくる体験活動
 想像しながら仕上がる色に驚きと感動を覚える
 絵の具の色と光の色の違いに気付けるか
 星の見え方、虹の見え方、空の色、海の色などに発展できるか

2. 活動スケジュール

6～8月シャボン玉あそび、園庭水遊び中にホースで虹づくり
 7月園内花火大会、地方の花火大会（打ち上げ花火）をビデオ鑑賞
 夏休み中明けに、各地の花火大会について体験談を含め話題にする
 9月に色の不思議（混色など）を体験
 12月に劇の発表会中に、園内の照明を使って光の混色や明暗を実感する

年間を通して楽器に触れ合う活動を計画的に組み入れる
 鍵盤ハーモニカは月2回程度組み入れる
 2月～3月に年長児が合奏発表会に向けて練習と発表会音の種類と楽器の大きさの違い

3. 探究活動の実践

(準備) 花火、絵の具、光の調光、水あそび中の偶然の発色

(活動中の様子)

- ・ホースで散水している時に発見「あ、虹だ」「消えた」「見えた」「消えた」の繰り返しで、多くの園児が集まってくる。消える位置と見えない位置、見える位置はどこか、まで気付けたらと期待
- ・色の認識ができていて、クレパスではできないけど、絵の具の混色は容易くできること、どの色とどの色を混ぜるとどうなるか、クイズ形式でも展開できた。
- ・光を調光すると、絵の具と同じになる色にほとんどなるが、ならないことも知り得た。

4. 振り返り

- ・水あそび中の太陽との関係は、自然の虹と比較することに繋がった。また、人為的に作ることで副虹を見せることに成功。
- ・絵の具で絵を描く際は、「色を混ぜないように筆を使って」と言ってしまうが、敢えて混ぜることへの抵抗感を抱きながら始まる色あそび。自由な発想で子ども達に使わせたいが、絵の具準備での葛藤を覚える。
- ・鍵盤ハーモニカの活動中に、年長の演奏を聴くことで「自分たちも…」の気持ちをもち、音階を楽しむ姿が見られ、自主的な活動に繋がった。
- ・楽器の種類によって音が違い、音色も違うことへの気づきがあり、弦楽器の種類で音の高低もちがう、管楽器の大きさでも違うことまで感じさせたい。
- ・光と音の関係については、さらに題材を検討してゆく。



園庭花火



色あそび



合奏練習



鍵盤ハーモニカ発表会